

Equipment

40年近い歳月で磨き上げられた不動のセッティング

ドラム・セットを見ればそのドラマーが誰かわかる。

まさしく神保 彰はその1人だろう。

楽器本体の変更やマイナー・チェンジを経て磨き上げられてきた、プロ・デビュー以来ほぼ不動のセッティングの現在形がこれだ。

Photo : Yoshika Horita
Text : Isao Nishimoto

60th
"KANREKI"
Anniversary
Special

Set Up

[Drum Kit]	[Snare Drum]	[Cymbals]
YAMAHA: YD9000AJ	YAMAHA: YD9000AJ The Snare	ZILDJIAN: K Custom Hybrid Series
22"×16"BD	14"×5"	14"Hybrid Reversible HiHat
8"×7.5"TT		11"Hybrid Splash
10"×7.5"TT		17"Hybrid Crash
12"×8"TT		21"Hybrid Ride
14"×11"TT		19"Hybrid Trash Smash
16"×13"TT		13"Hybrid Trash Splash on 15"Hybrid Trash Crash
		19"Hybrid China



YAMAHA YD9000AJ & ZILDJIAN K Custom Hybrid Series

デビュー30周年に制作した
シグネチャー・キットと
ジルジャンKカスタム・ハイブリッド・シリーズの
組み合わせ

主にワンマン・オーケストラで使われるヤマハのシグネチャー・キットYD9000AJ (バーチ・シェル)にDTX Padを加えたフル・セット。YD9000AJについては以前「使い込もうちに音の重心が下がってきた」と話していたが、現在その変化は落ち着き、「音に柔らかさと深みが出てきたと感じます」。タムのヘッドは「シェルの特性を一番素直に引き出す組み合わせだ」というレモのクリア・エンベラー(打面)と同アンバサダー(ボトム)、バス・ドラムの打面はパワーストローク3クリア。12"以上のタムにはボトム・ヘッドにフェルトが挟まれ、「倍音やノイズをカットする効果はとても大きいです」。シンバルは神保プロデュースのジルジャンKカスタム・ハイブリッド・シリーズで、「ジャンルを選ばず、流行に流されないサウンドです。ウェイトのバランスが良いので耐久性も素晴らしく、なかなか割れません」。リバーシブル・ハイハットは外側がブリリアント仕上げの方をトップにしており、「この方がチック音(踏んだときの音)が大きく、スティックのアタックがより明確になります」。左手側のティンパレスは2004年に特注で製作されたステンレス製で、今年から再登場。ドラムのチューニング・キーをえるので便利だという。イラストレーターのコーチはじめ氏によるバスドラのフロント・ヘッド・アートは昨年の絵柄で、今年は選層に合わせて赤い薔薇の花がモチーフになっている。



YAMAHA Recording Custom

CASIOPEA 3rdなどで活躍する
現行レコーディングカスタム



現行レコーディングカスタムの発表に合わせて用意されたもう1台のキット。主にCASIOPEA 3rdで使われることからティンパレスとDTX Padはセットされず、それ以外はYD9000AJとほぼ同じセッティングとなる(写真は2016年のもの)。「YD9000AJよりも中低域が出ているのが特徴です。シェルの色がややダークに変化してきているのと、アタックが明確に出るようになってきたと感じます」。(撮影:廣瀬 誠)



YAMAHA YD9000AJ The Snare

ドラム・セットと同素材のシグネチャー・スネア

YD9000AJのキットに合わせて作られたシグネチャー・スネア。サウンドの特徴に関して神保は「打面にしものコーテッド・エンペラーを張っているせいもありますが、音がまるやかです」と話す。写真では幅の細いリング・ミュートが見えるほか、スネア・スタンドのアーム先端で支えるようにセッティングされているのが確認できる。シェルの空気穴から出ているケーブルは、内部に取りつけられたトリガー・ピックアップの配線用。

こちらは、スチール・シェルのシグネチャー・スネア。シェルのセンター・ビードに巻いた紐の締め具合を変えることで、シェルの共振や倍音をコントロールするという神保自身のアイデアが採用された1台だ。「基本的にCASIOPEA 3rdの方で使っていますが、明るい音が欲しいときに登場させます。シェルの紐は締めるとボリューム感が若干落ちるので、自分にとってはこのくらい緩くした状態が良いようです」。



Foot Pedal

軽やか&パワフルなフット・ワークを支えるペダル類

フット・ペダルはヤマハDFP9500Cで、標準装備の2ウェイ・ピーター(BT950)からフェルト・タイプのBT912Aに変更。また、ハイハット・ペダルの左にはFP9500C(ピーターはBT950)で演奏するLPジャム・ブロックを置き、左足クラベ奏法などで活躍する。ジャム・ブロックにはトリガー・ピックアップが装着され、ワンマン・オーケストラの重要なパーツの1つとしても機能。



YAMAHA YSS1450AJ The Metal

スチール・シェルに紐を巻いた
ユニークなスネア



Stick

先端部のシェイプが特徴的な
シグネチャー・スティック

メインで使用するスティックは、ヴィックファースの神保彰シグネチャー・モデルVIC-AJ(ヒッコリー/14.4×406.4mm)。チップのサイズに対してショルダー部分があり絞られてないシェイプは、ヤマハ製のシグネチャー・スティックから継承している特徴の1つ。

Shoes

約3年前から愛用している
トレッキング・シューズ

2015年からドラム専用として愛用しているNORTH FACEのトレッキング・シューズ、トラバースTRレザ。以前NEW BALANCEで僕のドラム・シューズを作ってくれたデザイナーがデザインしたもので、グリップ感が非常に心地良いです。普段使いにも良さそうなので、神保ファンは探してみてくださいか？



In-Ear Monitor

ライブにレコーディングにと
大活躍のイヤモニ

WestoneのカスタムIEM(イン・イヤー・モニター)は、耳型をとって製作するタイプ。ライブではステージの大音量から耳を守る効果もある。「現行のシリーズで、ドライバーが3個入ったモデルです。ドライバーの数がもっと多いモデルもあるのですが、自分は3ドライバーが一番バランス良く聴こえるように感じました」。



Drum Trigger Module, etc.

ワンマン・オーケストラの
心臓部と言えるシステム

ヤマハDTX Drumsのサウンド・モジュールDTX 900M(右上)と、MIDIでコントロールするローランドの音源モジュールFantom-XR×2台(下)、それらのサウンドをまとめるヤマハの12チャンネル・ミキサーMGP12X(左上)。DTX900Mは発売から約6年が過ぎた製品だが、今もワンマン・オーケストラの中核を支える基本性能と機能を備えている。「この先まだまだメイン・システムとして活躍していくと思います」。



Groove Booster

“今では自分に不可欠なもの”と
厚い信頼を寄せるプレイ・グッズ

演奏時に必ず装着しているグローブ・ブースターは、神保の脱力ドラミングにおけるキー・アイテム。「手首を保護する目的もありますが、ストロークを安定させる効果も大きいです。市販されている各種サポーターに比べて生地が厚く、ニットの伸縮性が程良いので、今では自分にとってなくてはならないプレイ・グッズになりました」。



Drum Cases

ソロ・ライブのファンには
お馴染みのケースたち



英ハードケース社のポリエチレン製ドラム・ケース。運搬/保管性能に優れているだけでなく、ご覧のとおりルックスもキュートなのが特徴で、ワンマン・オーケストラのライブでは会場のどこかにディスプレイされて来場客を出迎えている。